

養成医かわら版

NEWSLETTER



自己紹介

名前：伊藤良太

専攻科：外科

勤務先：神戸大学大学院医学研究科 外科学講座 食道胃腸外科学分野

趣味：キャンプ（最近は育児のため行けてません）

経歴：

2019年3月 自治医科大学卒業

2019年4月～2021年3月 西脇市立西脇病院 初期研修

2021年4月～2023年3月 赤穂市民病院 外科

2023年4月～2024年3月 丹波医療センター 外科

2024年4月～ 現職

【外科医としてのキャリア】

西脇病院での初期研修では、外科ローテーションの期間はわずか3か月でしたが、ヘルニア手術の執刀経験などを通じて外科へのモチベーションが大きく高まりました。また、内科ローテでは主治医制のもと主体的に患者と向き合うことができ、得られた姿勢やスキルはその後の勤務に確実に活かされています。外科医として初めて勤務した赤穂市民病院では、消化器外科に限らず、乳腺外科、呼吸器外科、心臓血管外科手術や、救急対応では皮膚科、形成外科、整形外科や脳神経外科の疾患にも携わり、幅広い経験を積むことができました。限られた医療資源の中で手術や処置を行う難しさにも直面し、初めて医療経済的な視点にも触れました。丹波医療センターでは、消化器外科の緊急症例を含む多数の手術に携わり、下部直腸や肝胆膵の高難度症例も経験することで技術的に大きくステップアップできました。現在は神戸大学食道胃腸外科に入局し、大学院生としての生活を送っています。ハイリスク症例の管理やロボット手術、TaTMEなど大学ならではの手術を見学・経験する中で、これまでとは異なる視点からの学習を進めています。また、学会発表や論文執筆にも取り組み、2年目からは癌免疫研究グループに所属し、病理切片のAI解析をテーマに基礎研究に励んでいます。

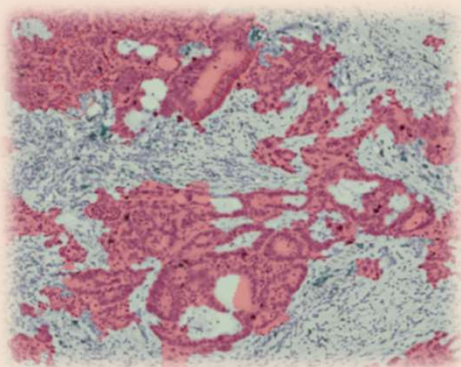
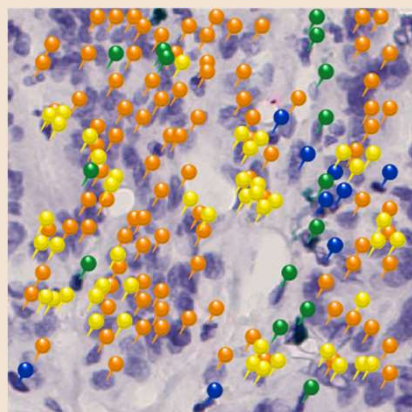


赤穂市民病院（左）、丹波医療センター（右）での送別会

右も左もわからない私に外科の基礎を一から教えていただきました。

【神戸大学に来てわかった地域医療】

私は初期研修医として、また外科専攻医として、これまでに5年間、地域医療の現場に携わってきました。大学院に所属してからも、地域の拠点病院における日当直や外来、手術支援などを通じて、引き続き地域医療に関わっています。かつて地域枠制度が十分に整備されていなかった時代には、医局がその代替として地域医療を支えていた一面があり、その名残を今も感じる場合があります。しかし、地域枠として地域医療に真正面から向き合ってきた私たちが持つ解像度とは異なり、そこには温度差を感じることもしばしばあります。「医療の谷間に灯をともし」という自治医科大学医学部のミッションのもと、まずは自分にできる範囲で、周囲に良い影響を与えられるよう努めていきたいと考えています。



病理AI研究（左上下）：癌免疫微小環境を解析しています。

神戸大学食道胃腸外科大腸グループ（右）：手術から論文執筆まで手厚くご指導いただいています。